

第11号様式の3(第5条関係)

政務活動記録簿(研修会開催)

会派名 自由民主党

年 月 日	令和4年2月15日(火) 13:30~15:30			
場所	奈良県議会第一委員会室			
研修会名	奈良県議会議員新型コロナ対策議員勉強会			
相手方(人数)	県議会議員12名 理事者2人 市議会議7人 県民11人			
開催目的	5歳から11歳の子どもを対象とした新型コロナワクチン接種に関する効果と副反応について、専門家による知見を学び政策立案に活かす事を目的とする。			
内容、結果等 ※研修会開催の効果を明記のこと	<p>講義「新型コロナウイルスとワクチン接種について」 講師:大阪市立大学名誉教授、宮城大学理事・副学長、井上正康氏 ※参加料無料</p> <p>井上名誉教授は、長年のウイルスとワクチン・免疫学の研究から今回のオミクロン株は弱毒となり圧倒的多数が無症状で経過する無症候性感染であり、亡くなっている方は免疫リスクや既往症のある高齢者が大半である。その事からハイリスクの方だけを集中的にケアすれば十分である。その様な高齢者を保護するために感染リスクが極めて少ない若者や児童にワクチンを接種する事は、医学的に言語道断であり極めて非常識であると述べられた。更にまともな医学教育を受けた医者がスパイク(コロナウイルスとワクチンに含まれている)が血栓症であるという事実を知ればワクチンを打つのはやめるでしょう。若者には「打ってはいけない」と述べられた。</p> <p>今後、地方議員として児童へのワクチン接種はより丁寧な「リスクとベネフィット」の説明が必要である事が判明した。</p>			
開催に要した 経費	項目	金額	内訳	領収書番号
	謝金	50,000	講師謝金(源泉・交通費込み)	113
	記録ビデオ撮影	33,000	ISテック VTR撮影編集	118
	合計	83,000 円(すべて政務活動)		
	備考	添付資料:研修次第 研修資料 写真		

注 研修の次第や資料、会場の写真等を添付してください。

新型コロナ対策議員勉強会のご案内！

「オミクロン株とワクチンの効果と5歳児への接種について」

驚異的な早さで感染拡大している「オミクロン株」。この先、一体どうなるのか？ 5歳から11歳の子どもを対象とした新型コロナワクチン接種と、3回目のブースター接種が始まろうとしています。

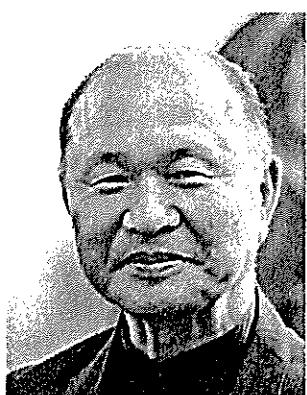
オミクロン株の重症化は低いと聞くがどうか？ワクチンの効果は？ 副反応は大丈夫なのか？ 本当に必要なのか？と児童を持つ保護者からは、小学低学年へのワクチン接種の開始を歓迎する声と不安視する声が入り混じって寄せられています。

そこで、TVや新聞、YouTubeでも決して聞くことのできないコロナ＆ワクチンの真相について、「ためしてガッテン」や「世界で一番受けたい授業」等に出演された大阪市立大学医学部名誉教授：井上正康先生にわかりやすく解説していただき、気になるギモンを解明したいと思います。

2月議会に向かって、是非ご参加を頂きたくお願い申し上げます。

(記)

- 【日 時】令和4年2月15日(火)午後13時30分～(受付13時00分)
- 【場 所】奈良県議会2F 第1委員会室 ★出欠=2月8日(火)までにお願い致します。
- 【返信先】FAX 0742-27-0379 ●【参加費】無料 (終了予定 15:30)
- 【主 催】自由民主党会派
- 電話でのご出欠席及びお問合せは→ 0742-27-8952 (担当：植村佳史)
- 《井上正康先生プロフィール》



1945年広島県生まれ。1974年岡山大学院修了(病理学、医学博士)、1980年Albert Einstein医科大学内科学准教授、1982年Tufts大学医学部教授(分子生理学)、2011年大阪市立大学名誉教授、宮城大学理事・副学長、2013年健康科学研究所所長(産業医学)、2015年(株)キリン堂ホールディングス取締役、2019年FMTクリニック院長、現在、健康科学研究所現代適塾塾長。

●著書:『新型コロナ騒動の正しい終わらせ方』『本当はこわくない新型コロナウイルス～最新科学情報から解明する「日本コロナ」の真実』方丈社、『新型コロナが本当にこわくなる本 医学・政治・経済の見地から“コロナ騒動”を総括する』方丈社、『コロナワクチン幻想を切る』ヒカルランド、『コロナとワクチンの全貌』小学館、『もむだけで血管は若返る』PHP研究所、他多数。

----- (そのままFAX下さい) -----

☆ 2/15 新型コロナ対策議員勉強会に

ご出席

ご欠席

○で囲んで下さい

お名前

医者いぢり

健康長寿 処方箋



健康科学研究所所長・大阪市立大学医学部名誉教授 井上正康

井上正康先生は、癌や生活習慣病を「活性酸素」やエネルギー代謝の観点と、地球や生命の歴史という大きな視野で研究されている国際的研究者です。現在、多くの府県師会主催の公開講座で講演され大好評を博しています。ぜひ貴師会でも!!
ご連絡はURLより。http://www.inouemasayasu.net

生物の基本的栄養素は、水、ミネラル、及び異種生命体である。植物にとってはウイルス、カビ、若葉を食べる昆虫や草食動物などが脅威であり、動物にとっては病原体が永遠の宿敵である。これに対して植物界は生物毒を創生し、動物界は免疫系を進化させてきた。「毒でなければ薬ではない」との名言がある様に、植物のスパイスは毒でもあり薬でもある。スパイスが調理に用いられるのはその典型であり、病原体や動物の餌食にならない為に進化させた生物毒である。刺身に添えられるワサビや生姜をはじめ、肉料理に多用されるニンニク、胡椒、香草などには放射線に匹敵する殺菌力があり、スパイスで適切に調理する事により感染リスクを下げながら美味しく食べることができる。唾液はIgAをはじめとする多様な防御因子を含んでおり、免疫防御系のフロントラインでもある。子供の傷口をお母さんが舐めてやるものも感染症対策なのである。食事でもスパイスの毒性を排除する為に多量の唾液が分泌され、アミラーゼの作用でご飯を更に美味しく食べられる。

甘味、塩味、酸味、旨味などには其一一種類の受容体遺伝子が対応しているが、苦味や辛味には約29種類もの“TRP受容体遺伝子”が対応し、食物の天文学的情報を感知している。スパイスは“美味しさへの欲望”を刺激しながら、無意識下で免疫防御系として機能している。日々の調理から様々な神事も含めて、人間の営みの多くは無意識的な感染症対策として進化した免疫的生存戦略である。人はパンデミックの歴史から様々な教訓を学ぶ事ができ、そこに新型コロナ騒動を解決する為の重要なメッセージがある。130年前にパンデミックとなったロシア風邪では人口14億人で百万人が死亡したが、ワクチンも無い時代に僅か1年で収束した。これが3年前まで変異し続けながら4種類の旧型風邪コロナに進化してきた元祖コロナウイルスである。その内の2種類はインフルエンザと同様に上気道粘膜のシアル酸に、1種類は新型コロナと同様に血管壁のACE2に、残りの1種類(229E型)は鼻や喉の粘膜のアミノペプチダーゼN(APN)に結合して感染する“風邪のウイルス”となった。100年前にパンデミックとなったスペイン風邪では約1億人が死亡したが、第1波より翌年の2波で多くの死者が出た事から、“ウイルス感染では波が繰り返される度にリスクが低下する”との教科書的事実が一時的に疑われた。毎年のインフルエンザでは年齢依存性に子供と高齢者のリスクが高いW字型被害を示すが、スペイン風邪では第2波で中央部に不自然なピークが現れてW字型の被害となった。実はこの第2波では25～35歳の兵士達に中毒量の解熱剤アスピリンが大量投与(30g)され、その薬害で多数が死亡していた。このW字型の死因が解熱剤による薬害である事に気づいた米軍がアスピリンの大剂量投与を中止した結果、翌年には死者者が激減して自然収束した。この薬害は現在の遺伝子ワクチンによる人災被害と極めて類似している。

メディアと専門家が壊ったパンデミックの恐怖感からロクに安全試験もされてない遺伝子ワクチンが世界中で半強制的に接種され、2回目の接種後にブレイクスルー感染が頻発し、3回目のブースター接種後に多くの国々で爆発的な感染が誘発されている。新型コロナの遺伝子ワクチンは自然免疫系を抑制して感染リスクを増強させる可能性が判明し、世界的に失敗した事が明白になった。しかし、賞味期限切れの危険なワクチンは

未だに接種され続けている。これは感染力が増強したオミクロンの急速拡大で第6波のPCR陽性波が可視化され、巨大製薬企業がメディアで不安感を煽り続けている事が主因である。100年前には欧米資本が中国を阿片漬けにして略奪したが、今では巨大資本が世界的規模で人類を遺伝子ワクチン漬けにしている。

新型コロナの幹株から誕生したオミクロン株には約50箇所もの変異があり、スパイクの切断部位のアミノ酸置換(H655Y, N679K, P681H)により感染力が激増すると同時に、血管壁のACE2に結合できなくなり血栓症のリスクが激減した。この遺伝子変異によりオミクロン株は上気道の上部粘膜APNを介して感染する“風邪のウイルス”に変身した。これがオミクロン株が“無症候性パンデミック”として世界中に急速拡大した分子基盤である。ワクチンが無かったロシア風邪は一年で収束して4種類の旧型風邪コロナに変異しながら人類と130年間も共存してきたが、新型コロナは2年かけて

“喉型風邪コロナ”に変身した。事実、オミクロンの感染者は大半が無症状であり、たとえ発症しても喉の痛み、頭痛、微熱、倦怠感などの“軽い風邪症状”で経過し、世界的にも重症化の兆しは診られない。オミクロン株のスパイク構造はα～β株と著しく異なる為に既存のワクチンは無効であり、逆に抗体依存性感染増強を誘発する危険性が高い。現在のワクチンがオミクロン株に無効な事はファイザー社も認めており、3ヶ月以内にオミクロンの専用ワクチンを開発すると報じている。しかし、専用ワクチンが開発される前に現在のオミクロンの波は収束するであろう。現存のウイルスに対するワクチンは新変異株に常に遅れをとる宿命にある。「変異株に緩やかに曝露し続けて免疫力を免許更新する事が重症化や死亡率を抑制する基本である事」が医学的定理である。日本人は旧型コロナによる毎年の免疫軍事訓練に加え、多数の中国人旅行客が持ち込んだ武漢型弱毒株に早期に無症候性感染して集団免疫を確立していた。その事がファクターXと呼ばれた“神風”となり、日本での感染被害と2020年度の超過死亡数を世界一低く抑制してくれた。その後もPCR陽性波に曝露され続けた日本人は、“新型コロナ変異株の生ワクチン”を6回も接種したとの同等の免疫力を獲得している。理化学研究所も“未感染者の大半が新型コロナに対して免疫反応するT細胞を有する事”を2021年に報告しており、“日本人が集団免疫を獲得している事”は紛れもない事実である。この免疫記憶は保存されるが、スパイク抗体は短寿命でワクチン接種でも速やかに低下する。この事実は大半の日本人に“コロナワクチン自体が有害無益である事”を意味する。感染力が激増したオミクロン株が“無症候性パンデミック”となつた事実は、世界的にも新型コロナが“感染力は強いが軽症の風邪ウイルスに変身した事”を意味する。これは“コロナ騒動の世界的終わりの始まり”であり、メディアや自称専門家が恐怖心を煽り続けて政府や国民を過剰反応させなければ、安全なポストコロナ時代の幕を明ける事ができる。インフォデミックと視野狭窄のコロナ脳が人流抑制政策とワクチンヒステリーを暴走させた人災で多くの生命と生活が奪われた。この「失敗の本質」を肝に銘じ、いい歳の大人がマトモな死生観を取り戻す事が本年の最重要課題である。間違っても大人の馬鹿騒ぎで“コロナリスクが皆無の子供達に危険な遺伝子ワクチンを接種させる愚策”を許してはならない。



「無症候性パンデミック」とオミクロン狂騒曲





健康科学研究所所長・大阪市立大学医学部名誉教授 井上正康

井上正康先生は、癌や生活習慣病を「活性酸素」やエネルギー代謝の観点と、地球や生命の歴史という大きな視野で研究されている国際的研究者です。現在、多くの府県師会主催の公開講座で講演され大好評を博しています。ぜひ貴師会でも!!

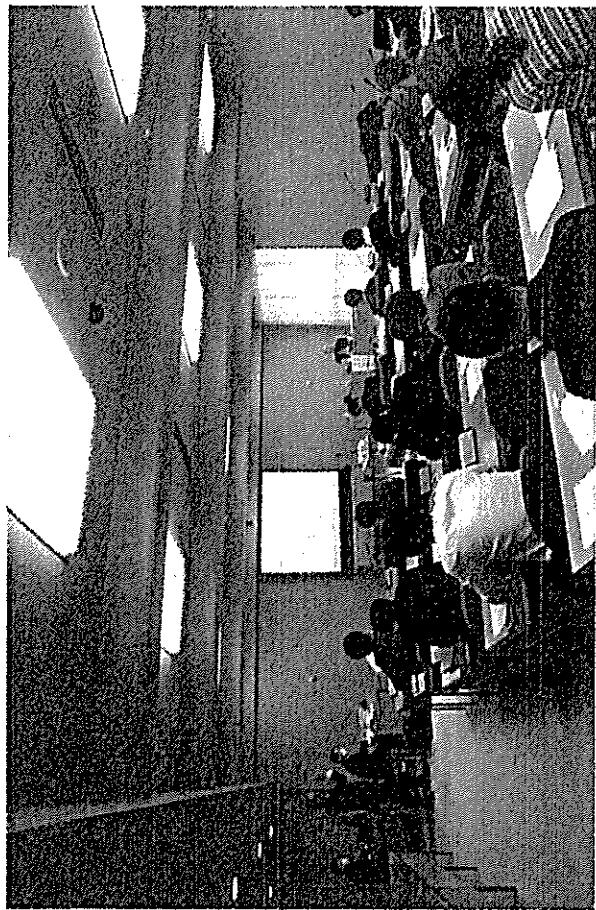
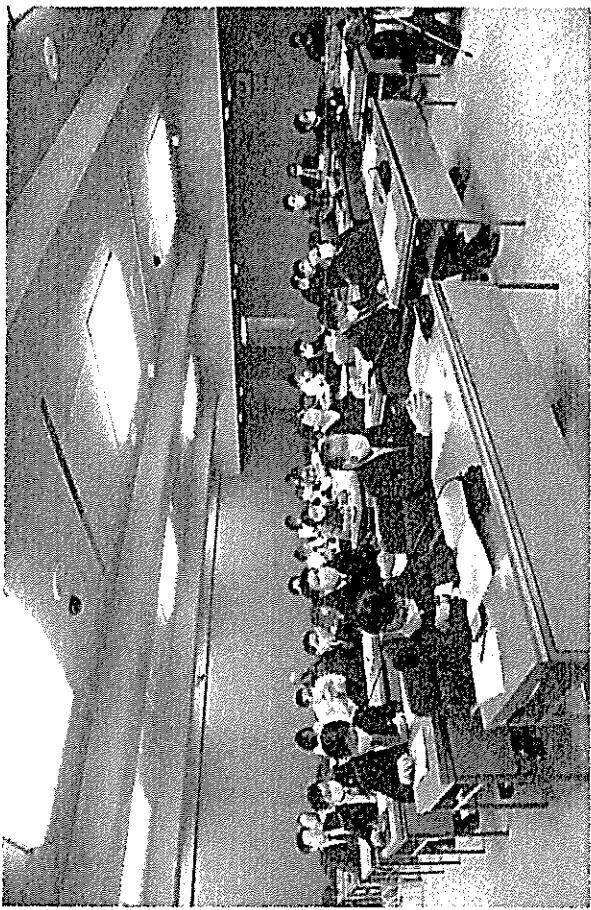
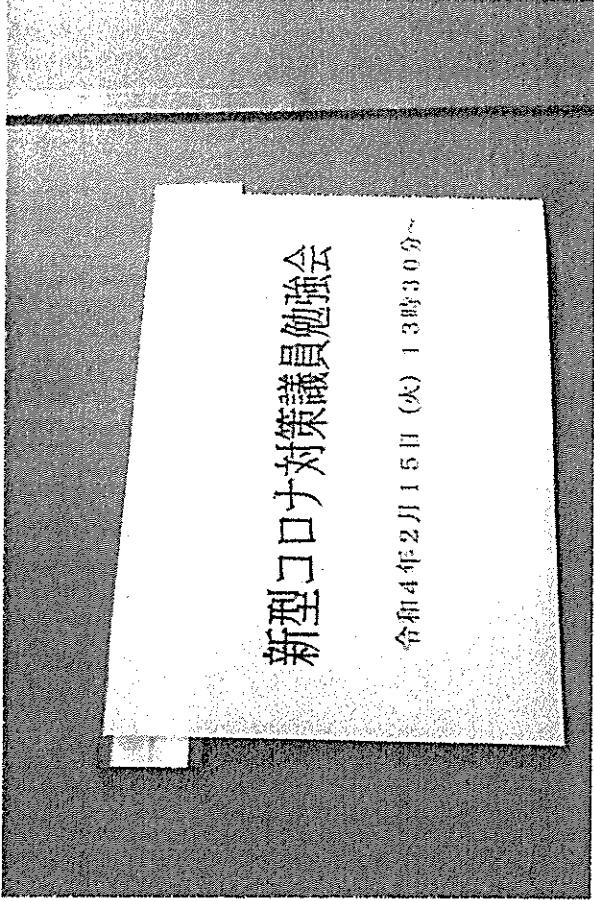
ご連絡はURLより。<http://www.inouemasayasu.net>

WHOは2021年11月末に南アフリカでの新型オミクロン株の激増を警告し、日経新聞も12月5日に南アでの新規感染者が前日比で4割近くも増えている事を報じた。これまで南アの主要な変異株だったデルタ(δ)株が、11月中旬には全検体でオミクロン株に置き換わっていた。各國政府は南アからの入国を速やかに制限したが、既にオミクロン株はイギリス、ドイツ、イタリア、ベルギー、チェコ、カナダ、オーストラリア、香港、日本を含む60ヶ国以上に侵入済み(11月15日現在)であり、“無症候性パンデミック”として世界中に拡散しつつある。スパイクに32ヶ所もの変異があるオミクロン株は、α、β、γ、δ株などと異なる変異系統であり、SARS-CoV2 Sと同系統のCOV-229Eに同時感染した宿主で誕生したと考えられる。スパイクに多くの変異があるオミクロン株は、血管壁ACE2とは異なる感染受容体を新たに獲得し、スパイク蛋白の開裂部位に近いH655Y、N679K、P681Hなどの変異が感染增强に関与していると考えられる。世界の感染状況を分析すると、現在のワクチンは無効であり、逆に再感染や感染爆発を誘発する危険性が示唆される。幸いにもオミクロン株の感染者は大半が無症状であり、発症しても頭痛、咳や喉の痛み、倦怠感などの軽い風邪症状で経過して重症化する兆しは見られない。

新型コロナと呼ばれる様に、コロナには旧型も存在する。130年前にパンデミックとなったロシア風邪のウイルスが元祖コロナである。当時は14億人の世界人口で100万人が死亡したので大変な惨状であったが、速やかに集団免疫が確立され、ワクチンや特効薬も無かったのに僅か1年で自然収束した。以来、元祖コロナは130年間も人類と共に存し、4種類の旧型コロナ集団へと変異しながら東アジアに生息し続けてきた。ロシア風邪の30年後にパンデミックとなったスペイン風邪は、カンザス州の兵舎で誕生した米国産インフルエンザであり、第1次世界大戦のヨーロッパへ飛び火して約1億人が死亡した。子供と高齢者のリスクが高いインフルエンザでは、死亡率が年齢依存性のU字型を示すが、米国の第2波では中央部(25~35歳)に不自然な高いピークが形成されて被害が増大した。これは政府により解熱剤のアスピリンを大量投与(~30g/日)され

た兵士達が肺浮腫と呼吸困難で死亡した薬害であった。事実、アスピリンの大量投与が中止された翌年にスペイン風邪は速やかに自然収束した。今回の遺伝子ワクチンと同様に、政府の投薬介入がなければもっと短期間に自然収束したと考えられている。スパイクが血栓症、心筋炎、血管障害を誘起する毒蛋白である事が判明した今回の遺伝子ワクチンでも世界中で政府主導型の人災的副反応被害が深刻化している。経験の科学である医学は「自然感染による集団免疫の獲得が最良の処方箋である事」を教えている。感染症の歴史から学ぶべき事は「変異株へのシームレスで緩やかな感染が集団免疫力を獲得進化させて重症化や死亡率を抑制する事実」である。日本人は土着コロナによる毎年の免疫軍事訓練に加え、19年暮から翌年2月までに大量の中国人旅行客と共に入国した弱毒武漢株に無症候性感染して強力な集団免疫力を獲得していた。その後に政府チャーター便で帰国した日本人が持ち帰った強毒G型株で第1波が始まったが、ウイルス干渉でインフルエンザが激減した事と集団免疫力が“神風”となり、20年度の日本人超過死亡数は世界一低く抑えられた。その後2021年夏までに5回ものPCR陽性波に曝露された日本人は、“新型コロナ変異株の生ワクチン”を6回も接種したのと同等の免疫力を獲得更新している。最近、理化学研究所が“新型コロナ未感染者”的約6割に新型コロナと反応するキラーT細胞が存在する事を報告した。これは“変異株に何度も無症候性感染して集団免疫を獲得した事実”を示す搖るぎない証拠である。

感染力が激増したオミクロン株が世界中で“無症候性パンデミック”となりつつある事実は、新型コロナが“感染力の強い普通の風邪”に進化したことを意味し、新年が“コロナ騒動終息の幕開け”になる事を示唆している。メディアや自称専門家のインフォデミックに煽られて政府や国民が過剰反応しなければ、日本でもポストコロナ時代の清々しい年明けを祝う事が可能である。インフォデミックと視野狭窄のコロナ脳が無意味な人流抑制政策とワクチンヒステリーを暴走させた人災的国難で多くの生命と生活が奪われた。この「失敗の本質」を俯瞰的に反省し、新時代に相応しい死生觀を再構築する新年となる事を願ってやまない。



第11号様式の15(第5条関係)

政務活動費備品台帳(令和3年度)

会派名：自由民主党

番号	名 称	規格・機種	数量 (単位:円)	取 得			処 分 の 状 況			保管場所	(購入者)
				単 価	取 得 金 額 (単位:円)	年 月 日	価 格	処 分 の 内 容	年 月 日		
1	デスクトップパソコン	富士通 FMVD500KP	1	231,000	231,000	令和3年10月7日				自民党控室	株式会社カギオ力
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
令和3年度計			1		231,000						

- 注 1 1件の取得価格が3万円以上(消費税込み)の備品等の財産を取得した場合、この台帳に記入するものとする。
 2 年度ごとに集計し、政務活動費支支報告書とともに議長へ提出することとする。
 3 購入単価(税込)は上限10万円とする。(ただし、パソコンを除く。)
 4 処分の内容欄には、売り払い、廃棄処分等別に記入すること。
 5 備考欄には取得の相手方又は処分の相手方等を記入すること。
 6 保管場所を明らかにし、現物確認ができる状態とすること。